

# 5月ほけんだより 新型コロナウイルス

まだ、終息の気配が見えない新型コロナウイルス。一人ひとりの自覚が大切になってきていますね。ほけんだよりでも、新型コロナウイルスへの最新ニュースがありましたら、掲載していこうと思います。

令和2年4月27日発行  
高岡・藤沢保育園

## 新型コロナウイルスQ&A

令和2年2月22日時点版

### 心配な時には

**Q1** 風邪のような症状があり心配です。どうしたらいいですか？

**A** 発熱などの風邪の症状があるときは、学校や会社を休むなど、外出を控えてください。毎体温を測定して記録しましょう。

**Q3** 最寄りの保健所等(帰国者・接触者相談センター)に相談するとどうなりますか？

**A** 電話での相談を踏まえて、感染の疑いがある場合には、必要に応じて、新型コロナウイルス感染症患者の診察ができる「帰国者・接触者外来」を確実に受診できるよう調整します。

### 予防について

**Q4** 新型コロナウイルスにはどうやって感染しますか？

**A** 現時点では、飛沫感染と接触感染の2つが考えられます。

- ① 感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫による「飛沫感染」
- ② ウイルスに触れた手で口や鼻を触ることによる「接触感染」

### 医療機関を受診するとき

**Q6** 医療機関を受診するときに気を付けることはありますか？

**A** 複数の医療機関を受診せず、「帰国者・接触者相談センター」等から紹介された医療機関(「帰国者・接触者外来」など)を受診してください。受診するときは、マスクを着用し、手洗いや咳エチケットを徹底してください。

**Q2** 感染したかも?と思ったらどうしたらいいですか？



**A** 以下の場合には、最寄りの保健所等にある「帰国者・接触者相談センター」に電話で相談しましょう。

- ① 風邪の症状や37.5度以上の熱が4日以上続く
- ② 強いだるさや息苦しさがある



・重症化しやすい高齢者や基礎疾患がある方に加えて、念のため妊婦さんは、こうした状態が2日程度続いたら相談しましょう。

・症状がこの基準に満たない場合には、かかりつけ医や近隣の医療機関にご相談ください。

**Q5** 感染予防のためにできることはありますか？

**A** 以下のことを心がけましょう。

- ① 石鹸やアルコール消毒液などによる手洗い
- ② 正しいマスクの着用を含む咳エチケット
- ③ 高齢者や持病のある方は公共交通機関や人込みを避ける

### 新型コロナウイルスについて

**Q7** 感染しても症状が出ない人がいますが、その人からも感染しますか？

**A** 現状では、はっきりしたことはわかっていません。通常、肺炎などを起こすウイルス感染症の場合、症状が最も強く現れる時期に、他者へウイルスをうつす可能性も最も高くなると言われています。





学校感染症

# はしか<sup>ましん</sup> (麻疹)

冬から春にかけて流行しやすく、麻疹ウイルスに感染している人が、せきやくしゃみをしたときの飛沫感染や空気感染をします。非常に感染力が強い病気です。熱が下がってから3日は登園停止となっています。4月現在、茨城県でも発症者が出ています。

## 主な症状~はしか~

潜伏期間は10日前後。はじめは熱、くしゃみ、鼻水といったかぜのような症状が出て、高熱は2~3日でいったん38~37℃台に下がり、再び40℃前後まで上がります。そして赤い斑点のような発しんが、首に現れ、顔、胸、手、足と全身に広がっていきます。病気の後半には、かなり強いせきが出て、発しんがつながっていきます。また、同時に結膜炎を発症することもあります。

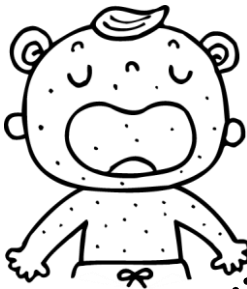
潜伏期間10日前後

熱・くしゃみ  
せき・鼻水



熱はいったん下がり、再び高熱

- ほおの内側に白い斑点
- 首筋に赤い斑点
- 顔、胸、手、足に斑点



強いせきが出る

- 発しんが  
つながってくる



10日前後で回復する

## はしかにかかったら

### ★休みやすい環境を整えて

部屋の温湿度調節、換気に気を配り、熱が高いときには氷まくらで冷やすなど、休みやすい環境作りを心がけてください。



### ★水分補給をしっかりと

熱が高くなる病気なので、脱水症状を起こしやすくなります。水分補給には十分気を配りましょう。



### ★合併症に注意

はしかになると、体の抵抗力が弱まり、中耳炎・気管支炎・肺炎など、別の病気を起こすこともあります。注意しましょう。



### ★熱が下がってから3日は登園停止

回復するまでには10日前後かかります。熱が下がってから3日経過するまで登園停止になっています。



## はしかの予防接種

はしかは、子どもでも合併症を起こすこともあり、十分注意が必要な病気です。必ず予防接種を受けるようにしましょう。公費による予防接種は1歳からですが、お母さんの胎内でもらった抗体は6か月ころに切れてしまいます。1歳前でも自費で受けることができるので、医師と相談してみてください。

